

### 支部大会準決勝

11月16日（日）第四支部大会の準決勝である豊島高校戦が行われました。

支部大会最終日ということで、アナウンスによるスターティングメンバー紹介が行われるなど、大会最終日の独特の雰囲気の中、試合が始まります。

リバウンドショットで高島が先制しますが、豊島の3Pや速攻で失点を重ねてしまい開始5分で2-10とリードを許す苦しい展開。その後、3Pを3連続で決め返し食らいつくも、立ち上がりのビハインドが尾を引き第1Qを16-23で終えます。

第2Qに入ると相手のゾーンDFに対して強みのインサイドでも得点を取れるようになり、開始3分で追いつくことに成功。その後、一進一退の攻防が続きますが、同点で迎えたラスト1プレーでリバウンドからゴール下のシュートをしぶとく決め37-35と前半を2点リードで終えます。

第3Q、先制こそ許すもののゴール下で得点を重ね開始3分で43-37と6点のリードを奪います。しかし、豊島がタイムアウトで流れを切ると、ドライブやミドルシュートで再び逆転を許し50-54の4点ビハインドでこのクォーターを終えます。

勝負の第4Qドライブからの合わせなどで得点をあげ点差を詰めると、残り7分20秒、執念の3Pで57-56と再び試合をひっくり返します。しかし、その後豊島のドライブや3Pを止められず、残り4分57秒で59-64と5点を追う展開となります。終盤、なんとか点差を詰めるべく積極的にリングに向かいフリースローなどで得点をあげますが、逆転には至らず62-71で敗れてしまいました。

### 粘り強くなった要因

支部大会は決勝進出とはならなかったものの、第3位という結果で大会を終えました。結果に対して決して満足してはいませんが、初戦から厳しいゲームが多かった中で、選手の成長という意味では夏から大きな変化があり、手応えを感じることが出来ました。

新チーム発足以来、練習試合やU18リーグ戦など多くの実践の場を経験してきましたが、うまく行かなくなると我慢が出来なくなり、一気に点差を離されてしまうゲームもありました。ただ、この大会を通してチームが崩れてしまい、やるべきことが遂行できなくなる時間はありませんでした。初戦の小平西戦、2桁リードを奪いながら逆転を許した場面。準々決勝の文京戦、こちらの得点が止まり2桁リードを奪われた場面。準決勝の豊島戦、立ち上がりからいきなり8点差をつけられた場面。多くの逆境がありましたが、選手たちに焦りや苛立ち、不安の表情はなく、すごく前向きな言葉が飛び交っていました。

特に今大会印象に残ったのは、コート上で選手同士がハイタッチする場面が数多くあったことです。それもグッドプレーに対してだけでなく、ミスをしてしまったり、ファウルを吹かれて気持ちが落ちそうになるプレーヤーに対して、他のプレーヤーが声をかけ、ハイタッチすることで前を向かせている場面が幾度となくありました。チームの士気を自分たちで高めることができるという部分において、自律した大人の集団になったと強く感じます。

また、試合に出ているメンバーだけでなく、ベンチ・応援のメンバーが作ってくれた明るい雰囲気がコート上のプレーヤーを後押ししたことは間違いありません。ベンチや応援席からの声はSilver Bulletsの最大の武器であり、競ったゲームを勝ち切る大きな要因となりました。

この大会で感じられた成長を一過性のものにすることなく、より厳しい困難をもチャンスととらえてチームで団結して乗り越えられるような強さを手にすることができれば、彼らは何かものすごい成果を残すのではないかと。そんな期待を感じさせる、秋のシーズンとなりました。自分たちの手でつかみ取った新人戦本大会でも高島らしさを発揮してアツい戦いが出来るよう、日々の小さな積み重ねを大切にしていきます。